

第13回「青松賞」懸賞論文審査結果

12月19日、「青松賞」懸賞論文選考委員会が、選考委員として、斎藤人文学部長・馬場法学部長・澤村経済学部長・田辺人文・法・経済学部同窓会長・近藤事務局長で開催され、以下の通りの選考結果となりましたのでお知らせいたします。応募数は8件でした。応募の内訳は、人文学部3件・法学部4件・経済学部1件でした。

優秀賞 塚原 風門 (法学部1年)

待機児童問題から考える少子化社会

奨励賞 田村 惇 (人文学部4年)

通時的自然現象としての少子化

岩淵 一樹 (法学部4年)

少子化社会を迎えた今日の我が国における労働政策のあり方

※受賞論文は誌面の関係で別刷冊子にて発表いたします。

※4年生の入賞者は、3月の各学部の卒業祝賀会で、3年生以下の入賞者は、4月のガイダンスにて同窓会から表彰いたしますので、ご出席をお願い致します。
詳しくは後日該当者へご連絡致します。

(予告) 2018年 第14回「青松」懸賞論文のテーマ

2045年問題を考える ー人工知能が人間を超えるときー

に決定しました。 2018年11月末締め切りです。